

フォージド・バイ・ファイヤー



FORGED BY FIRE BY CHRISTOPH BORER

(情熱の炎によって完成した 40 作品)

< 日本語解説書 >

翻訳：平賀義達

編集：フェザータッチ MAGIC

（訳注：これは珍しくスイスのマジシャン Christoph Borer の作品集です。Christoph は FT マジックで販売している「GET SHARKY：ゲットシャークー」というパーラーカードトリックの傑作を考案した人でもあります。訳者もそのトリックをやったことがあり、その素晴らしさに感嘆していたので、この本が発刊された時に是非翻訳したいと思っていたものです。タイトルの「FORGED BY FIRE」を直訳すれば、「火によって鍛造された、練り上げられた」という意味ですが、「著者の情熱の炎によって作り上げられた（作品集）」と言った感じでしょうか。

約40のトリックが載っていますが、クローズアップからステージまで幅広く、変化に富んでいます。

それぞれのアイデアも面白く、特にプレゼンテーションの設定が面白いものが多く、楽しめると思います。ただし、使う道具の中には作るのに大変な手間がかかるなど、準備が大変なものもあります。それは、この本のトリックが Christoph がプロとして実際に演じているものであり、そこで実戦に使っている道具なので安易に妥協出来ないからです。それらについては、たとえやらなくても、それらの道具がどのように使われ、どんな現象となるのかを知るだけでもマジシャンとしては面白く、勉強になります。必ずや、読者の参考になるトリックやアイデアがあると思いますので、お楽しみください

はじめに（要約）

我が親愛なるマジシャン仲間の皆様、

私の過去40年間にわたるマジック人生から、私の作品を英語で提供できるのはとてもうれしいことです。私は7歳の時からマジックの魅力に取り憑かれ研究してきましたが、新しいルーティン、表現法、プレゼンテーションを考えることに情熱を注いで来ました。

これまでにドイツ語で5冊の本を刊行し、あと2冊が進行中です。それらの中で約200の私のトリックを解説してきました。この「FORGED ON FIRE」には、私がベストだと思う40のトリックを載せましたが、私が考案したかヴァリエーションとして作ったもので、すべて内容を見直しており時代遅れなものはありません。すべて私が長年、世界中でクローズアップ、パーラー、ステージで演じてきたものです。何回も演じる中でまた、見直され磨かれてきたものです。

もちろん私の創造力は完璧ではないので、読者の皆さんがこの本のトリックから少しでもヒントやインスピレーションを得て、ご自分にあったものを生み出してくれたらうれしいです。皆で、このマジックと言う美しいアートを前に進めて行きましょう。

最後に、この英語版を刊行するのに尽力してくれた、Andi Gladwin、Joshua Jay はじめ、VANISHING INC.の皆さん、その他の皆さんに心から感謝します。

Viva La Magia !

2023年7月 バイエル、スイス

Christoph Borer

カード

TEAR OFF

（現象）

客の選んだカードの 1 つのコーナーを破り取って、デッキに戻します。客との楽しいやり取りの後に、客のカードが完全な形で取り出されますが、なんと他のカードすべてのコーナーが破り取られているのです。

（一言）

このエフェクトの基になったのは、ドイツの Thomas Otto のものですが、私はそれにクライマックスを付けて再構成しました。

一般の客にこれをやると、始めから食いついてきます。というのも、カードのコーナーを破くということを普段見ることはないからです。それに続く、コーナーの無い客のカードの搜索も楽しいものとなりますが、最後には想像もしていなかったノックアウトパンチが観客を襲います。

（準備）

—以下省略—

（やり方）

—以下省略—

ONLY THE HALF OF IT

（一言）

このルーティンを演じるには、かなり準備が必要です。デッキにはいろいろなギャフカードを仕込む必要があり、またいくつかのスライトをマスターしなければなりません。しかし、それらのすべての努力は報われるでしょう。私はこれが、ベストなカラーチェンジングデッキのエフェクトだと、心から思っています。

（現象）

青裏デッキから客が 1 枚のカードを選びます。そのカードの裏が赤裏に変化します。マジシャンはもう一度やって見せようと言って別なカードを選ばせますが、今度は裏面の半分しか赤くなりません。もう一度マジカルジェスチャーをすると、裏面全部が赤くなります。最後に、何枚もの青裏カードが先ほどまで見えていたのに、突然すべてのカードが赤裏に変わってクライマックスとなります。

（準備）

—以下省略—

（やり方）

—以下省略—

（補足）

私がはじめてクロースアップマジックを始めて以来、私は「COLOR-CHANGING DECK」に興味を持ってきました。私の知っている「COLOR-CHANGING DECK」のルーティンでは、いつも2つの事が気になっていました。キーエフェクトの「色の変化」がダイレクトでないものが多い点と、トリックのクライマックスがあらかじめ予想されてしまうものが多いという点です。

その点、このエフェクトで導入した「赤・青裏半々のカード」は、「色の変化」をよりビジュアルにまた具体的に見せており、あらかじめ予想出来ない強力な武器となっています。

OH、SO CLOSE

（現象）

マジシャンは青裏デッキをテーブルに置きます。次に、客に赤裏デッキから1枚のカードを選ばせます。仮にクラブのキングとします。それはテーブルの中央に観客によく見えるように置かれます。マジシャンが青裏デッキを裏向きでテーブルにスプレッドすると、1枚のカードが表向きになっています。ところがそれはスペードの7です。

「あれ！」マジシャンは残念そうな顔をします。「おしかった。別なカードを表向きにすれば良かったのか・・・」と悔しそうな顔をして宙を見つめながら、青裏デッキのスプレッドを表返します。すると、すべてのカードが客のカード、クラブのキングなのです。

（一言）

これはクイックトリックであり、また奇妙な味のあるものです。私はいつもがっかりしたような顔をして、最初のカードを示します。そして表向きのスプレッドの方はろくに見ないで、結果的にすべてうまく行っているのにがっかりした顔のまま終わるというやり方をしています。

（準備）

—以下省略—

（やり方）

—以下省略—

DOUBLE THOUGHT

—AL KORAN に捧げる

（現象）

客とマジシャンがデッキの半分をそれぞれ持ち、自分のハーフデッキから1枚のカードを抜き出し覚えたら、またそれぞれのハーフデッキの中に戻します。2人の持っているハーフデッキを交換したら、それぞれ直感で1枚のカードを選びます。すると、マジシャンは客のカードを、客はマジシャンのカードを選んでいるのです。

（一言）

これはAL KORANの本「AL KORAN 'S PROFESSIONAL PRESENTATIONS」（1968）にある「DOUBLE THOUGHT」のヴァリエーションです。そこではマークドデッキが使われましたが、私は代わりに「50/50フォーシングデッキ」を使いました。つまり、デッキの半分が同一カードであり、そのハーフデッキを持った客はまったく自由にマジシャンのカードを抜き出せるという事になります。また、マジシャンは最初に自分の選んだカードを周りの客に見せておくことが出来るので、後で当たったことが確認出来ます。素晴らしいミラクルです！ベースのアイデアをくれたAL KORANに感謝です。

（準備）

—以下省略—

（やり方）

—以下省略—

（補足）

このタイプのエフェクトでは、プレゼンテーションが明確でなければいけません。客が今何をやるべきかがハッキリ分かり、マジシャンの指示に完璧について来られるようにしなければなりません。そこで私はプレゼンテーションを明確に2つに分けるようにしています。まずはマジシャンと客が2人とも「お客様」の場面であり、リラックスした雰囲気で行います。次にムードを変えて、2人ともが「マジシャン」に変身する場面とします。雰囲気はより静かな、サスペンスに満ちたマジカルなものとなります。

—以下省略—

CLOSE-UP

YEAR-ROUND POSITIVITY

（現象）

マジシャンは「YEAR-ROUND POSITIVITY（1 年を積極的に生きよう）」というタイトルの小冊子を見せ、精神的な自助努力のためのものだと言明します。マジシャンは内容についてコメントし、「8 月」のセクションを開けます。そこには、「あなたの人生の何かを転換させよう」と書いてあります。それを見せた後にマジシャンは小冊子の裏表紙を切り取り、180度転換させて小冊子にくっつけると、裏表紙は小冊子本体に融合してしまいます。

マジシャンはその小冊子を客にあげてしまいますが、裏表紙は逆になったまま＝転換されたままなのです。

（一言）

私がサンチャゴの CAMINO（巡礼の道）を歩きながら、本を使ったマジックについて考えていた時、ALEX HECKLAU の「ONE:TWIST」というカードマジックを思い出しました。それはプレイングカードの半分を逆向きにして他の半分にくっつけると、そのまま1枚のカードに融合してしまうという素敵なマジックです。同じ現象が本を使って出来ないかと思い立ち、約半年にわたってハードな研究をつづけた結果、私はこの「YEAR-ROUND POSITIVITY」を作りました。本の内容も私が考えて、2冊の小冊子を作りました。1冊は普通の冊子で、もう1冊は裏表紙が逆向きのものです（訳注：実際に演技で使うのは、上下逆の裏表紙のものだけです）。

それからルーティンを検討したのですが、思った以上に大変でした。観客の前でうまく披露出来るまでには、多くの失敗もしましたし、何人ものマジシャン仲間からのアドバイス等をもらいました。そうしてようやく、観客の前で以下のルーティンが演じられるようになったのです。観客はその演技を喜んでくれたようです。現在では印刷のコストもかつてほど高くはないので、読者は自分の小冊子を印刷して作ることも出来ます。

私の書いた「YEAR-ROUND POSITIVITY」は、「初めの言葉」の後、2頁ごとに毎月のテーマが掲げてあります。冊子を開けた左側の頁には各月の「行動指針」が書いてあり、右側の頁にはコメントが書かれています。つまり、読者は毎月の「行動指針」を読んで、生きる意欲を奮い立たせてもらおうという趣旨です。具体的には、「今月は我が道を行こう」とか「緊張せずにリラックスして行こう」とか言ったことです。

（準備）

—以下省略—

（やり方）

—以下省略—

（補足）

観客にとっては、これは珍奇な予想しがたいエフェクトです。観客はいつも終わった後もこの話をしていいます。もし、表紙に絵を描いた人がスピリチュアルなものに興味がある人なら、小冊子は嬉しいプレゼントとなるでしょう。

小冊子を作るのには確かに経費と手間がかかりますが、一度まとめて作っておけば何回も演技が可能です。私の場合は、普通の冊子を300、裏表紙が上下逆転している冊子を500、バラの表紙を500まとめて印刷しました。つまり、これらのストックで私は500回近くこのエフェクトを演じられるわけです。普通の冊子はショーの後で、安く販売することが出来ます。私のショーの後では、興味を持った客が毎回4、5人は冊子を買って行きます。

（訳注：冊子は小さいものなので、パソコンとプリンターでも作れると思います。コピー用紙が薄ければ、画用紙などに貼り付けても良いですし、ダミーの裏表紙としては、プレイングカードの紙のようにパームし易い紙に裏表紙のデザインをコピーした紙を貼って使うことも出来るでしょう）

THE TECHNICOLOR PENCIL

（現象）

マジシャンは黒の色鉛筆で1枚の紙にあるシンボルを描きます。次に、客に同じ色鉛筆で紙にサインさせます。さらにマジシャンは紙にいろいろな単語を書いてから折りたたみます。黒の色鉛筆でマジックワンドのように折った紙をたたきます。紙を広げて見ると、黒で書かれたはずの単語がいろいろな色で書かれているのです。このルーティンは別な客が読むマジシャン仲間からの手紙の指示に従って進められます。

—以下省略—